



2021年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年10月9日

上場会社名 株式会社ジェイグループホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3063 URL <http://www.jgroup.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 新田 二郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 林 芳郎

TEL 052-243-0026

四半期報告書提出予定日 2020年10月14日

配当支払開始予定日

2020年11月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績(2020年3月1日～2020年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	4,422	37.4	352		280		1,376	
2020年2月期第2四半期	7,062	5.6	34		101		88	

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 1,394百万円 (%) 2020年2月期第2四半期 80百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	147.48	
2020年2月期第2四半期	9.83	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第2四半期	11,368	1,089	8.8
2020年2月期	11,499	2,467	20.5

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 1,000百万円 2020年2月期 2,352百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		1.50		1.50	3.00
2021年2月期		1.50			
2021年2月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年2月期の配当予想につきましては、現在、世界的に広がる新型コロナウイルスの影響が現時点では先が見えず、合理的な配当予想の判断が困難なことから、期末の配当については未定とします。

3. 2021年2月期の連結業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,500	26.1	500		470		1,500		160.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期2Q	9,591,600 株	2020年2月期	9,522,000 株
期末自己株式数	2021年2月期2Q	200,153 株	2020年2月期	200,153 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期2Q	9,334,820 株	2020年2月期2Q	8,998,305 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付書類3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、2020年10月21日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料につきましては、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(追加情報)	13
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の激化や中国の景気減速懸念の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を背景に国内における個人消費及び経済活動の停滞等により、景気の先行は不透明な状況が続いております。

外食業界におきましては、依然として消費者の節約志向が続く中で、原材料価格の上昇や人材不足による人件費関連コストの上昇等に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にむけた外出自粛要請や営業時間短縮要請により、さらに厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループでは、従来より推進しておりました事業構造改革として人員配置の適正化や生産性の向上を図り本社費用の削減に取り組みました。直営店の出退店におきましては、10店舗を新規出店し、1店舗をリニューアルするとともに、3店舗を閉店いたしました。これらにより、2020年8月末日現在の業態数及び店舗数は、78業態149店舗(国内146店舗、海外3店舗)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は固定資産譲渡による収入が大きく寄与するも、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための営業自粛等が大きく影響し、4,422百万円(前年同期比37.4%減)、営業損失は352百万円(前年同期は営業損失34百万円)となりました。また、特別利益として雇用調整助成金等の助成金収入414百万円、特別損失として営業自粛期間における店舗運営にかかる固定費等を650百万円、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を勘案し、海外を含む飲食セグメントにおける資産の帳簿価額を回収可能額まで減額した際の当該減少額567百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,376百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失88百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 飲食事業

飲食事業におきましては、お客様の利便性や満足度の向上を図るべく、飲み放題の定額サービスやドミナント展開を活かした当社グループ店舗間での出前サービスに取り組みました。新規出店といたしましては、2020年6月に当社グループ所有のテナントビル「EXIT NISHIKI」に「La Boca Gastronomie (ラボカガストロノミア)」、「BAR 泡(バーバブル)」、「おぼんざい台所 おふくろ」、「ハイボールの世界へようこそ」、「カラオケ天国 歌姫のハート」、「THE WHISKY BAR EXIT (ザウイスキーバーイグジット)」、「野球BAR ダイヤモンド」、「バーJD」、「京おでんBAR 紬〜つむぎ〜」、「パンコクBAR スワイチャン」(名古屋市中区)を新規オープンいたしました。リニューアルでは、2020年8月に「博多かわ屋静岡呉服町店」(静岡市葵区)を「博多かわ屋べつどころ静岡呉服町店」にリニューアルオープンいたしました。また、2020年6月に「芋蔵(イモゾウ)四日市店」及び「博多かわ屋四日市店」(三重県四日市市)、「月のうさぎ」(埼玉県志木市)を閉店いたしました。

その結果、飲食事業における売上高は1,460百万円(前年同期比77.2%減)、営業損失は1,023百万円(前年同期は営業利益288百万円)となりました。

② 不動産事業

2020年5月に開設いたしましたテナントビル「EXIT NISHIKI」や「jG金山」などの賃貸収入が安定的な収益に寄与いたしました。また、「ダイヤモンドウェイ」(名古屋市中村区)、「物流センター」及び「ジュール広川」(名古屋市中川区)を売却いたしました。その結果、不動産事業における売上高は3,485百万円(前年同期比240.1%増)、営業利益は1,127百万円(同1044.6%増)となりました。

③ ブライダル事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、婚礼の延期等が発生し、施行組数が減少いたしました。その結果、ブライダル事業における売上高は105百万円(前年同期比68.3%減)、営業損失は60百万円(前年同期は営業損失8百万円)となりました。

④ その他の事業

販促制作事業及び卸売業等のその他の事業における売上高は92百万円(前年同期比79.1%減)、営業損失は17百万円(前年同期は営業利益12百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は11,368百万円(前連結会計年度末比130百万円減少)となり、負債は10,278百万円(同1,246百万円増加)、純資産は1,089百万円(同1,377百万円減少)となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,775百万円増加し3,562百万円となりました。これは、現金及び預金が1,809百万円増加したことなどが主な要因であります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,903百万円減少し7,793百万円となりました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、店舗設備の減損損失を計上したことや固定資産の譲渡などにより有形固定資産が1,828百万円減少したことが主な要因であります。

繰延資産につきましては、社債発行費が2百万円減少し12百万円となりました。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ660百万円増加し3,367百万円となりました。これは、短期借入金が666百万円増加したことが主な要因であります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ585百万円増加し6,911百万円となりました。これは、長期借入金715百万円増加したことなどが主な要因であります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ1,377百万円減少し1,089百万円となりました。これは、四半期純損失の計上及び剰余金の配当により利益剰余金が1,390百万円減少したことが主な要因であります。

なお、当第2四半期連結会計期間におきまして、テナントビル「ダイヤモンドウェイ」の譲渡が予定通り完了しており、ウィズコロナ、アフターコロナに備えた成長投資資金として活用していく予定であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローが1,076百万円の資金増(前年同期比239.1%増)、投資活動によるキャッシュ・フローが596百万円(同13.1%減)の資金減、財務活動によるキャッシュ・フローが1,329百万円の資金増(同115.0%増)となりました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末の資金残高は2,718百万円となり、前連結会計年度末の909百万円に比べ1,809百万円増加しております。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、増加した資金は1,076百万円(前年同期比239.1%増)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失を1,116百万円、非資金項目である減価償却費を236百万円、減損損失を567百万円、のれん償却額を18百万円それぞれ計上し、有形固定資産からたな卸資産に1,569百万円振り替えたことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は596百万円(前年同期比13.1%減)となりました。これは主に、不動産事業における有形固定資産の取得による支出が612百万円あったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、増加した資金は1,329百万円(前年同期比115.0%増)となりました。これは主に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による不測の事態に備えた短期借入金が417百万円、長期借入金が1,192百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の連結業績予想につきましては、2020年7月10日に公表いたしました業績予想から現時点において変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	909,217	2,718,339
売掛金	308,560	106,765
商品及び製品	116,001	121,016
原材料及び貯蔵品	89,992	60,596
その他	363,614	555,995
流動資産合計	1,787,385	3,562,712
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,713,030	2,684,905
土地	3,725,832	2,858,315
その他(純額)	1,291,963	359,528
有形固定資産合計	7,730,827	5,902,749
無形固定資産		
のれん	449,735	430,115
その他	26,017	24,745
無形固定資産合計	475,753	454,860
投資その他の資産		
投資有価証券	8,220	8,230
差入保証金	1,236,682	1,198,942
繰延税金資産	80,272	62,166
その他	172,694	180,169
貸倒引当金	△7,645	△13,412
投資その他の資産合計	1,490,224	1,436,095
固定資産合計	9,696,804	7,793,706
繰延資産		
社債発行費	15,164	12,430
繰延資産合計	15,164	12,430
資産合計	11,499,355	11,368,848

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	389,786	120,392
短期借入金	81,312	748,252
1年内返済予定の長期借入金	835,217	803,458
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
未払金	790,029	681,135
未払法人税等	98,405	379,686
株主優待引当金	6,523	3,394
その他	475,453	601,332
流動負債合計	2,706,726	3,367,651
固定負債		
社債	365,000	350,000
長期借入金	4,721,001	5,436,978
繰延税金負債	615,599	615,345
資産除去債務	82,268	80,574
その他	541,694	428,427
固定負債合計	6,325,564	6,911,326
負債合計	9,032,290	10,278,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524,162	1,540,819
資本剰余金	1,448,134	1,464,791
利益剰余金	△506,630	△1,897,312
自己株式	△76,122	△76,122
株主資本合計	2,389,543	1,032,176
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△37,050	△31,471
その他の包括利益累計額合計	△37,050	△31,471
新株予約権	6,192	3,886
非支配株主持分	108,379	85,279
純資産合計	2,467,064	1,089,871
負債純資産合計	11,499,355	11,368,848

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	7,062,060	4,422,663
売上原価	2,276,611	2,276,978
売上総利益	4,785,449	2,145,684
販売費及び一般管理費	4,819,585	2,497,691
営業損失(△)	△34,136	△352,007
営業外収益		
受取利息	412	81
為替差益	—	2,361
金利スワップ評価益	750	59,334
協賛金収入	58,000	43,037
設備賃貸料	5,477	2,994
その他	12,846	21,058
営業外収益合計	77,487	128,867
営業外費用		
支払利息	35,311	46,992
為替差損	10,335	—
金利スワップ評価損	83,852	—
賃貸費用	6,959	6,809
その他	8,861	4,041
営業外費用合計	145,320	57,844
経常損失(△)	△101,969	△280,983
特別利益		
固定資産売却益	14,797	374
助成金収入	—	414,652
特別利益合計	14,797	415,026
特別損失		
固定資産除却損	—	74
店舗閉鎖損失	1,275	32,657
減損損失	—	567,747
店舗臨時休業による損失	—	650,111
特別損失合計	1,275	1,250,591
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,448	△1,116,548
法人税等	△9,381	283,250
四半期純損失(△)	△79,066	△1,399,799
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9,403	△23,099
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△88,470	△1,376,699

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純損失(△)	△79,066	△1,399,799
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,259	5,579
その他の包括利益合計	△1,259	5,579
四半期包括利益	△80,326	△1,394,219
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△87,990	△1,371,120
非支配株主に係る四半期包括利益	7,664	△23,099

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,448	△1,116,548
減価償却費	325,669	236,581
減損損失	—	567,747
のれん償却額	18,283	18,154
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	5,767
株主優待引当金の増減額(△は減少)	550	△3,129
受取利息及び受取配当金	△412	△82
店舗臨時休業による損失	—	52,675
支払利息	35,311	46,992
金利スワップ評価損益(△は益)	83,101	△59,334
有形固定資産売却損益(△は益)	△14,797	△374
固定資産除却損	—	74
助成金収入	—	△414,652
店舗閉鎖損失	1,275	32,657
売上債権の増減額(△は増加)	△55,813	201,790
たな卸資産の増減額(△は増加)	△21,465	24,372
有形固定資産からたな卸資産への振替	—	1,569,425
仕入債務の増減額(△は減少)	210,169	△269,388
その他	△96,270	△137,222
小計	397,153	755,508
利息及び配当金の受取額	411	81
助成金の受取額	—	337,625
利息の支払額	△32,638	△48,312
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△47,540	31,213
営業活動によるキャッシュ・フロー	317,384	1,076,116
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△724,158	△612,738
有形固定資産の売却による収入	3,888	394
無形固定資産の取得による支出	△398	△3,199
差入保証金の差入による支出	△15,181	△19,250
差入保証金の回収による収入	21,390	56,961
貸付けによる支出	△800	△600
貸付金の回収による収入	64,409	4,100
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△18,551	—
その他	△17,044	△21,981
投資活動によるキャッシュ・フロー	△686,447	△596,314

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	249,250	666,940
長期借入れによる収入	734,878	1,927,409
長期借入金の返済による支出	△545,729	△1,243,810
リース債務の返済による支出	△34,166	△24,844
社債の発行による収入	49,249	—
社債の償還による支出	△10,000	△15,000
株式の発行による収入	194,182	32,646
自己株式の取得による支出	△37	—
配当金の支払額	△13,163	△13,982
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△6,028	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	618,434	1,329,358
現金及び現金同等物に係る換算差額	△122	△38
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	249,249	1,809,121
現金及び現金同等物の期首残高	537,262	909,217
現金及び現金同等物の四半期末残高	786,512	2,718,339

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、ストック・オプションとしての新株予約権の権利行使により、資本金が16,657千円、資本準備金が16,657千円増加し、当第2四半期連結累計期間末において資本金が1,540,819千円、資本剰余金が1,464,791千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	6,362,863	141,361	333,666	6,837,891	224,169	7,062,060	—	7,062,060
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	38,027	883,459	8	921,495	220,171	1,141,666	△1,141,666	—
計	6,400,890	1,024,821	333,675	7,759,386	444,340	8,203,727	△1,141,666	7,062,060
セグメント利益又は 損失(△)	288,346	98,516	△8,953	377,909	12,082	389,992	△424,128	△34,136

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△424,128千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「飲食」セグメントにおいて、KAKEHASHI, S. L. U. の株式を取得し、子会社化いたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては、29,437千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より「飲食事業」に含んでおりました株式会社かわ屋インターナショナルの食材の販売に関する事業を「その他事業」に区分しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	飲食	不動産	ブライダル	計				
売上高								
(1) 外部顧客への 売上高	1,441,958	2,787,412	105,829	4,335,200	87,463	4,422,663	-	4,422,663
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	18,284	698,032	-	716,317	5,295	721,613	△721,613	-
計	1,460,243	3,485,444	105,829	5,051,517	92,758	5,144,276	△721,613	4,422,663
セグメント利益又 は損失(△)	△1,023,128	1,127,619	△60,269	44,220	△17,541	26,678	△378,685	△352,007

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告代理業や卸売業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△378,685千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食」セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、政府・自治体等による緊急事態宣言・各種要請が発出されたことによる当社グループへの影響を勘案し、当該資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては、567,747千円であります。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、政府・自治体等による緊急事態宣言・各種要請が発出され、当社グループにおいても、来客数が大きく減少するなど事業活動に重要な影響を及ぼしています。緊急事態宣言の解除後は、来客数の一定の回復が見られておりますが、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しは依然として不透明な状況にあります。

このような状況のなか、固定資産の減損損失の認識判定・測定に利用する計画は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に収束に向かい、2021年7月以降の売上高は概ね感染拡大前の水準まで回復すると仮定して策定しております。また、売上高が回復するまでの計画については、業態、地域、店舗規模等を勘案しております。なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であり、影響が長期化し、上述の仮定が見込まれなくなった場合には、将来において損失が発生する可能性があります。

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2020年10月9日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社ジェイグループインターナショナル及びサンクスマインド株式会社を吸収合併することを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

結合企業の名称 : 株式会社ジェイグループホールディングス

事業の内容 : 不動産事業

被結合企業の名称 : 株式会社ジェイグループインターナショナル、サンクスマインド株式会社

事業の内容 : 海外事業の管理・統括、飲食事業

(2) 企業結合日

2020年12月1日(予定)

(3) 企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、株式会社ジェイグループインターナショナル及びサンクスマインド株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社ジェイグループホールディングス

(5) その他取引の概要

従来より取り組んでまいりました事業構造改革の一環として経営資源の有効活用、業務効率の向上を目的としております。

2. 実施予定の会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。